

予報期間 11月4日から11月10日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 6日は、前線を伴った低気圧が日本の南から日本の東へ進む。
- 7日から8日にかけて、高気圧が沿海州付近から日本の東に移動する。
- 8日から10日にかけて、低気圧が中国東北区から千島近海に進み、前線が本州付近を通過する。

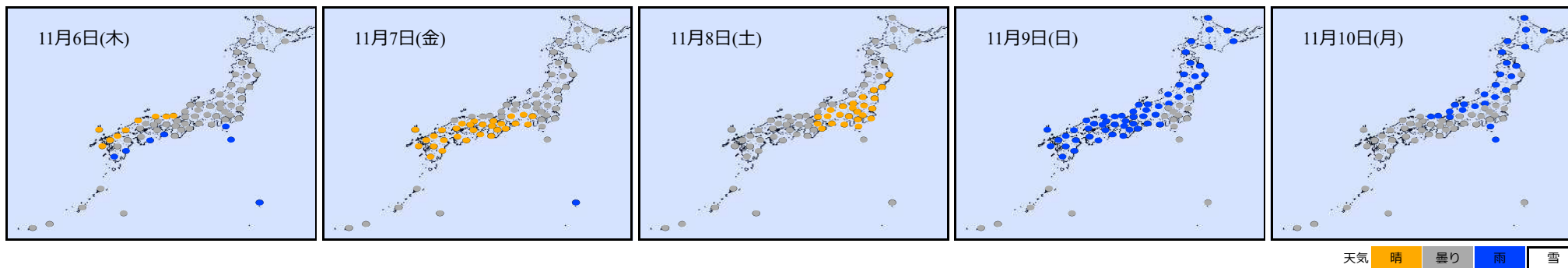
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 6日は、伊豆諸島では、前線の影響で大雨となり、前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

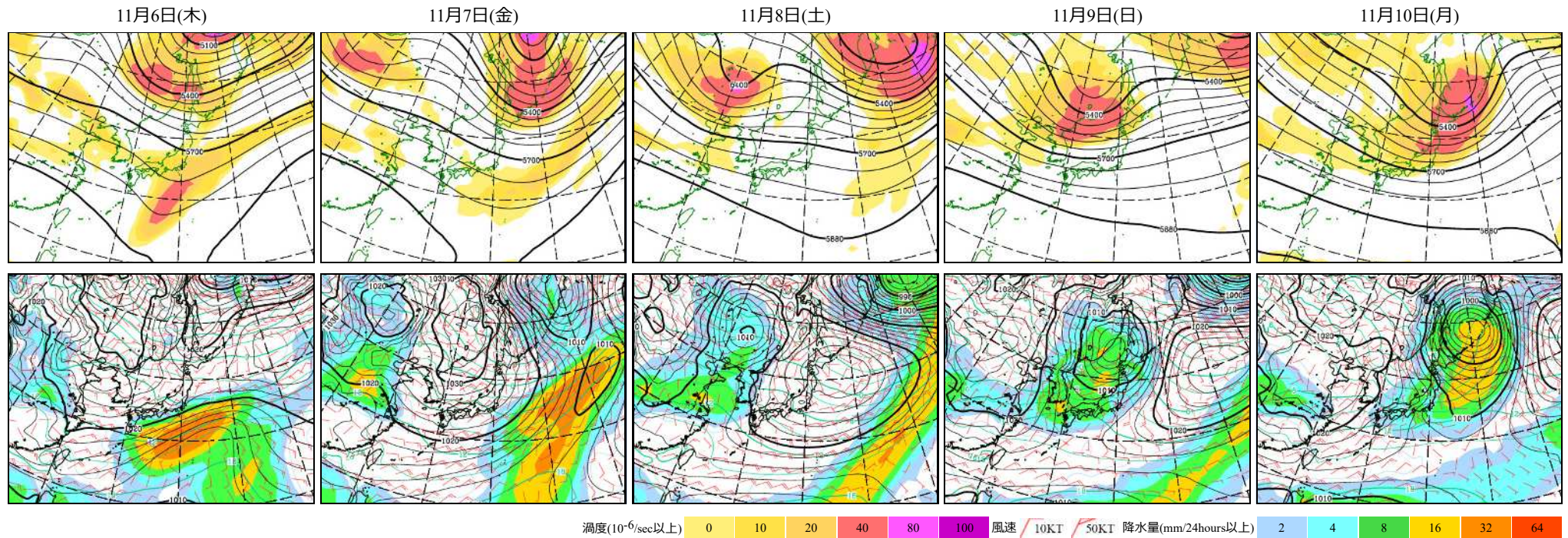
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

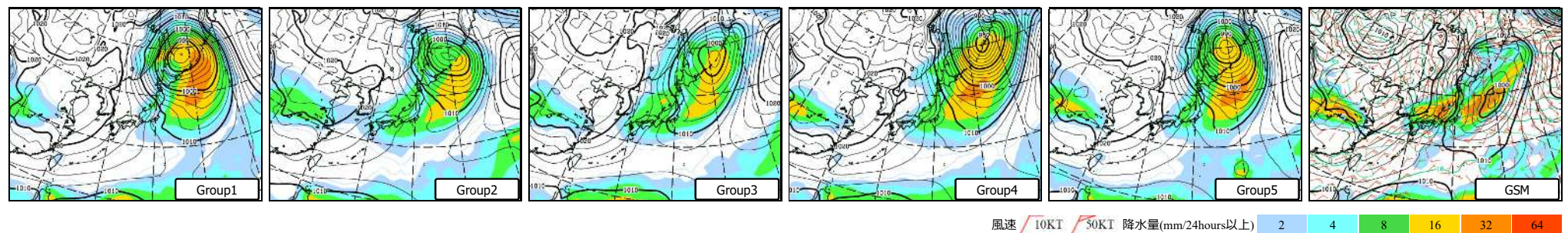


- 北日本は、6日から8日は曇りや晴れの日が多いが、9日から10日は雨や雪の降る所が多い。
- 東日本と西日本は、曇りや晴れの日が多いが、6日と9日、10日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月10日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、6日は日本の南の低気圧が弱くなり、6日から8日にかけて中国東北区から北日本を通過して日本の東に移動する高気圧が強くなった。8日から9日にかけて中国東北区から沿海州に進む低気圧が強くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、6日は東日本、西日本で低くなった。9日は九州で高くなった。
- スプレッドは比較的小さいが、期間後半にサハリン付近を通過する低気圧や、この低気圧からのびる前線の位置についてはモデル間に差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。